

# 新たな海辺の文化の創造を目指して — 里浜づくりの推進 —

平成15年9月

港湾局 海岸・防災課

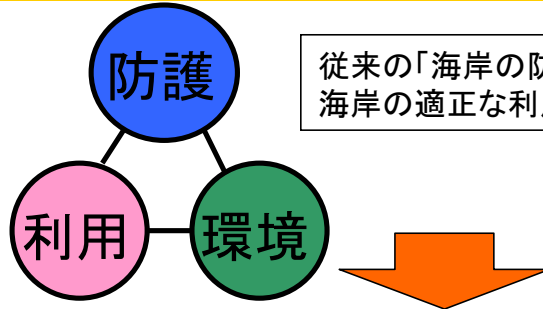
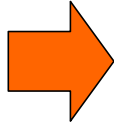
# 目次

|   |    |
|---|----|
| 海辺づくりの課題                                | 1  |
| かつての浜は、暮らしの中にしっかりと位置付けられた<br>地域の共有空間でした | 2  |
| 新たな海辺の文化の創造研究会                          | 3  |
| 新たな海辺の文化の創造の具体的イメージ                     | 4  |
| 新たな海辺の文化の創造のフロー                         | 5  |
| 里浜とは？里浜づくりとは？                           | 6  |
| 里浜づくりの関係主体の役割                           | 7  |
| 里浜のイメージー海辺と人々の関わりの例ー                    | 8  |
| 里浜づくりのイメージー市民参加の例ー                      | 10 |
| ビーチスポーツを楽しもう                            | 11 |
| ビーチクラブをつくろう！                            | 12 |
| 1年中楽しめるイベントを開催しよう！                      | 13 |
| 里浜づくりの推進に向けた取り組み                        | 14 |

# 海辺づくりの課題

海岸法の改正

防護



従来の「海岸の防護」に、「海岸環境の整備と保全」及び「公衆の海岸の適正な利用」が加えられた。



しかし、これまでの海辺づくりはものづくりを最大の解決策とし、海岸整備は「環境」、「利用」を単なる機能のみの部分だけ、「防護」に加えたものとしてきた。

市民、行政、専門家の協働（パートナーシップ）により、人と海辺の関わりを深め、それぞれの地域の特性を活かした「海辺の文化」を創造（＝里浜づくり）することが必要

# かつての浜は、暮らしの中にしっかりと位置付けられた地域の共有空間でした

〔私たちの先祖や先輩たちの海辺と人々のつながり〕



高知県桂浜の神事



愛知県亀崎の神事



沖縄県塩屋海岸の海神祭



沖縄県黒島海岸の豊年祭

# 新たな海辺の文化の創造研究会

人と海辺の関わりを見直し、新たな海辺の文化の創造により、多様な主体が協働した海辺づくりを進めるため、平成14年度において以下の研究会を設置し、検討を行っている。

## 新たな海辺の文化の創造研究会

座長:川勝 平太(国際日本文化研究センター教授)

検討事項:

- ・新たな海辺の文化の創造の必要性
- ・実現すべき「海辺の文化」「里浜」の姿の明確化
- ・各部会の考え方・施策の方向性の統一

### 里浜づくり研究会

座長:磯部 雅彦  
(東京大学大学院教授)

検討事項:

- ・「里浜」の概念整理
- ・「里浜」づくりを促進するためのプログラム
- ・モデル地区における検討・評価
- ・計画段階からの市民参加型海辺の整備・運営の進め方についての指針の作成
- ・ボランティア・サポート・プログラムなど地域住民、NPOを主体とした海辺の管理の進め方

### 海辺の自然学校研究会

座長:岡島 成行  
(大妻女子大学教授)

検討事項:

- ・人々が海辺の自然とのふれあい体験を通して、環境について学習し、環境保全意識を醸成するための場づくりの進め方
- ・海辺の自然学校の存在意義・使命、活動内容、運営形態、学習プログラム
- ・モデル地区の設置、評価
- ・指導者養成システム
- ・海辺の自然学校ネットワークの構築
- ・自然学校経営者支援

### ビーチスポーツ研究会

座長:近藤 健雄  
(日本大学教授)

検討事項:

- ・ビーチスポーツ振興の意義
- ・ビーチバレーを代表例として多様なビーチスポーツの振興を通じた海辺の利用の促進方法
- ・それを通じた地域の交流の促進方法、里浜づくりの意識の高揚方法

# 新たな海辺の文化の創造の具体的イメージ

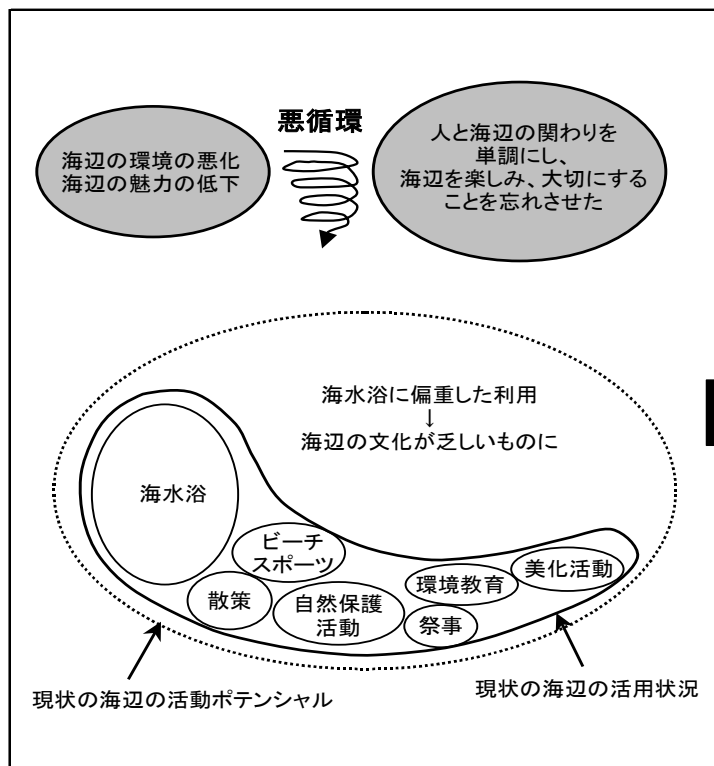


図 現状の海辺の姿

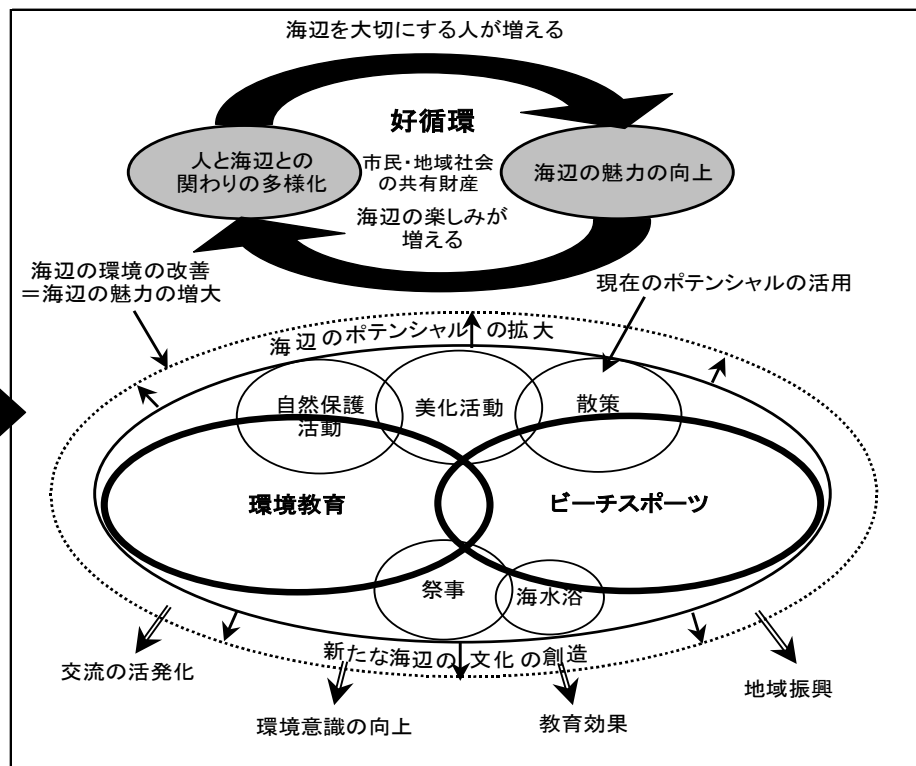
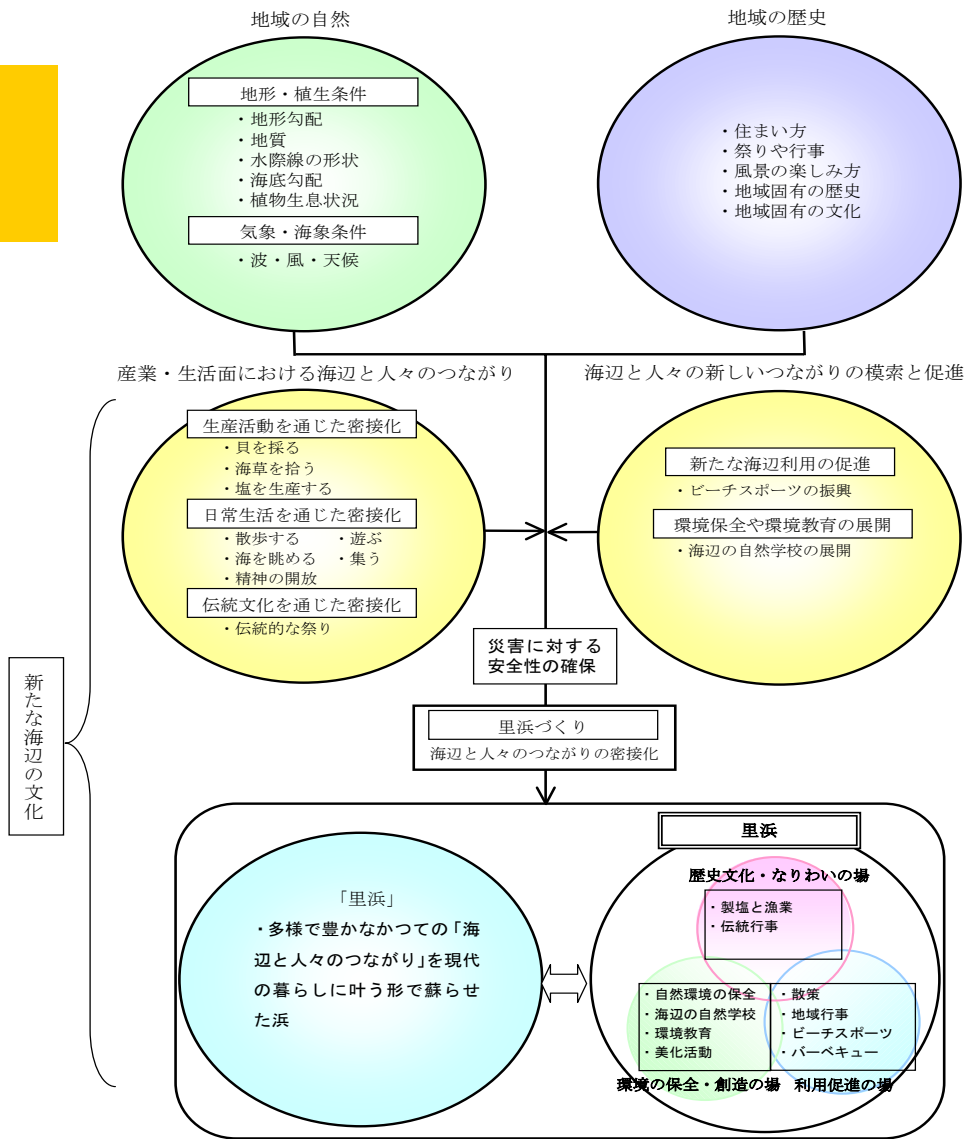


図 目指すべき海辺の姿

# 新たな海辺の文化の創造のフロー



# 里浜とは？ 里浜づくりとは？

## 里浜とは？

多様で豊かなかつての「海辺と人々のつながり」を現代の暮らしにかなう形でよみがえらせた浜

注) 「里浜」は、「里山」から連想した新しい言葉  
「里山」は地理的概念が強いが、「里浜」は地理的特性に着目した概念ではない。(都市海岸等も含む。)

## 里浜づくりとは？

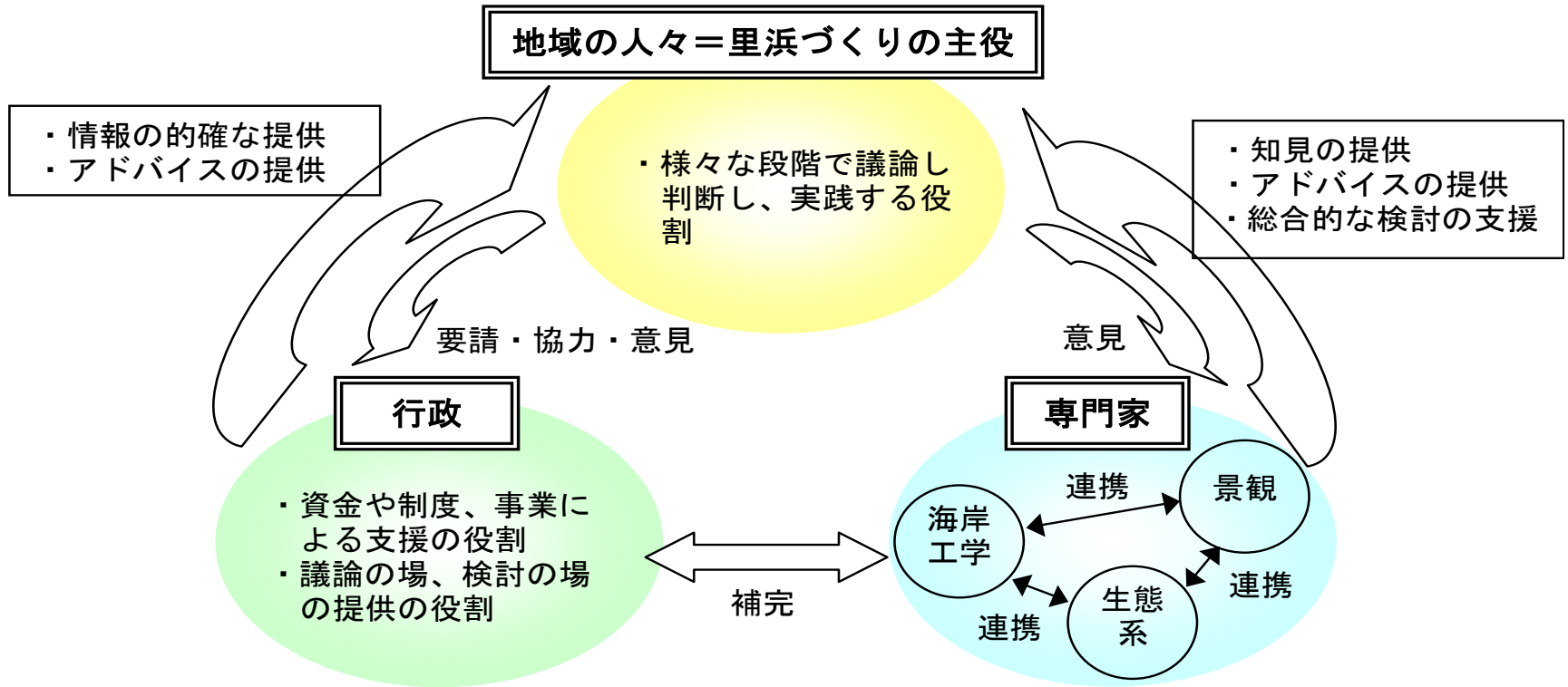
地域の人々が、海辺と自分たちの地域のかかわりがどうあるべきかを災害防止のあり方をも含めて議論し、海辺を地域の共有空間(コモンズ)として意識しながら、長い時間をかけて、地域の人々と海辺との固有のつながりを培い、育て、つくりだしていく運動や様々な取り組み

## コモンズ

コモンズという言葉は、定義はあいまいであるが、日本語に訳せば、「入会地」という意味である。元々入会地は、その土地の所有権及びその土地で何らかの行為をする権利を地域の人々が共有することを意味する場合が多いと考えられる。しかし、ここで使っているコモンズは、入会地のように所有権をある特定のコミュニティが共同で持っていることを意味するのではなく、人々が、海辺を自分たちの共有空間のように意識し、その維持、保全のための義務と便益が生じる空間として、その維持、保全のための高い認識をもつべきとの意味をこめ、共有空間をコモンズとしている。



# 里浜づくりの関係主体の役割



# 里浜のイメージー海辺と人々の関わりの例ー

## ○コミュニティ活動



【松の植樹】

## ○文化活動



【海辺の散歩】



【地域の伝統行事である薪能の開催】

## ○学習活動



【海辺の自然学校】

【干潟を利用した環境学習】



## ○スポーツ活動



【ビーチバレー大会の開催】



# 里浜づくりのイメージー市民参加の例ー

座談会、ワークショップ、シンポジウム等を行い地元の意見を取り入れながら事業を進めている。

【別府港海岸の例】



**別府の海岸づくりシンポジウム**

とき **3月8日(土)** ビエコンプラザ3階「国際会議室」  
午後1時30分 開演

定額 **300円** **入場無料**

別府の海岸づくりシンポジウムは、日本行政の発展と発展のきっかけは市民参加による自治体の建設である。別府市の海岸づくりは、市民参加型に計画されていますが、近年の急激な人口減少による財政削減により計画が困難になっています。

平成13年度にスタートした別府総合開発事業では、「人々の暮らしを守る安定的な港湾」、「観光の発展と地域の活性化に貢献する港湾」、「地域の環境と共生する港湾」を打ち出しています。シンポジウムでは、これからの別府の海岸づくりについて考えていきます。

**プログラム**

(13:00 開演/受付)  
13:30 開会あいさつ

① 総論講演  
これからの海岸づくり  
② 市民参加によるまちづくり

③ 解説講演/発表  
別府市港湾づくり  
別府市港湾づくりアンケートの結果  
別府市港湾づくりアンケートの結果  
別府市港湾づくりアンケートの結果  
別府市港湾づくりアンケートの結果

④ パネルディスカッション  
別府市港湾づくりアンケートの結果

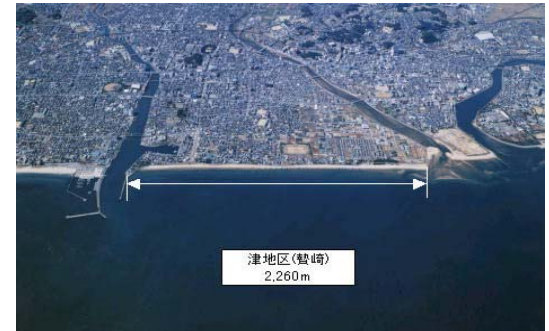
16:30 終了予定

会場地図

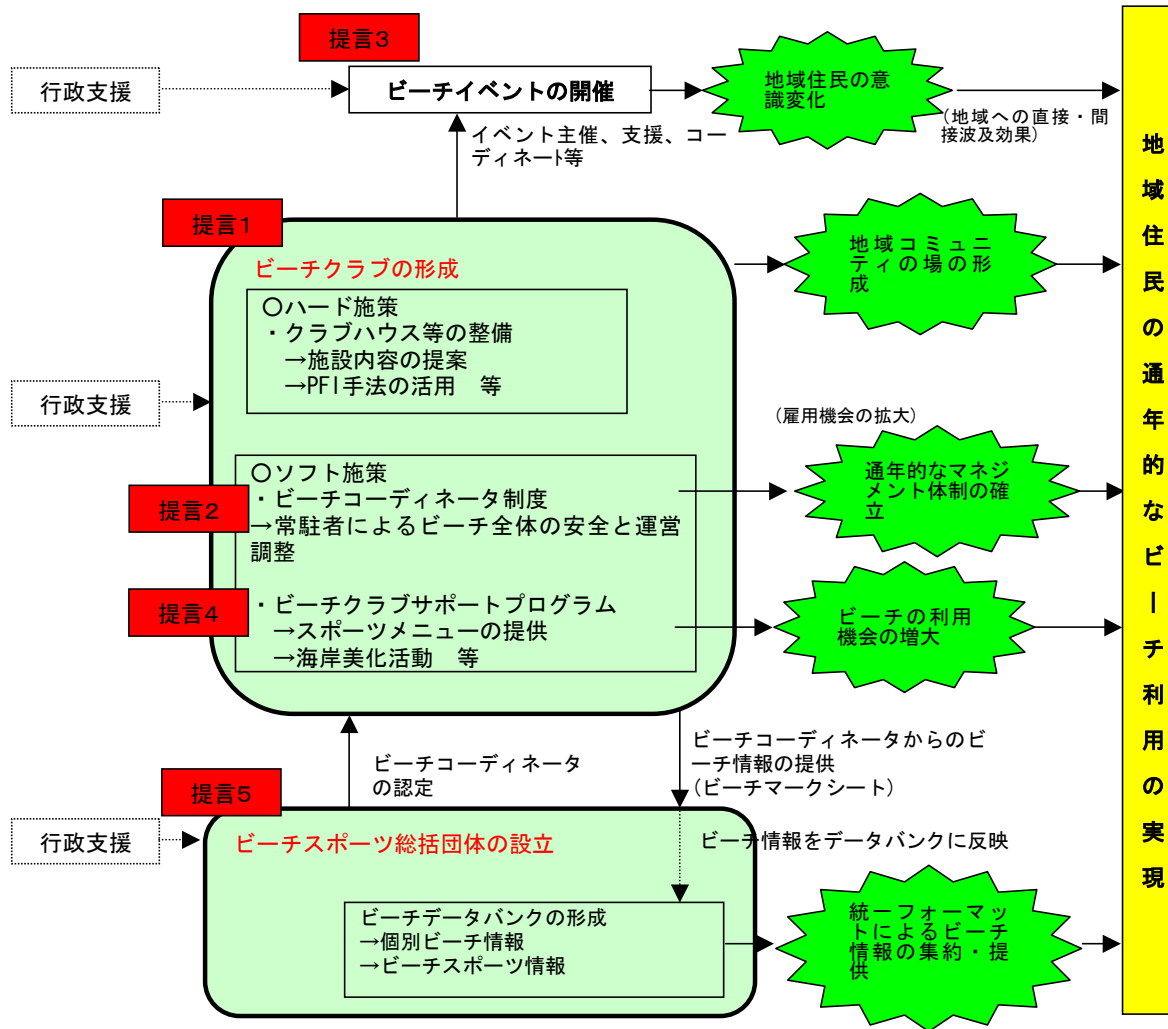
別府コンベンションセンター  
別府市本町1-1-1 TEL:0977-26-7111

主催 国土交通省 九州地方整備局 別府港湾空港工事事務所・大分県新聞社 協力 大分県・別府市

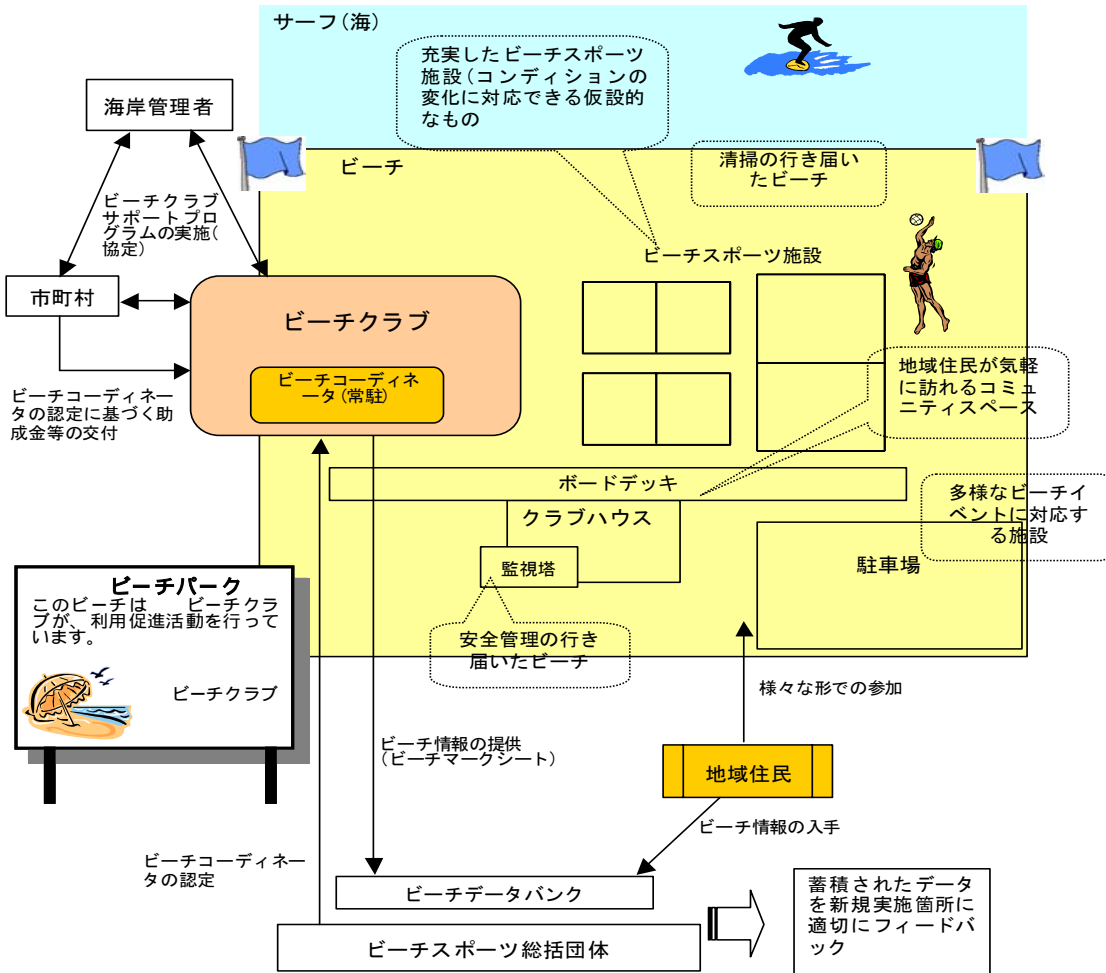
【津松阪港(豊崎地区)海岸の例】



# ビーチスポーツを楽しもう

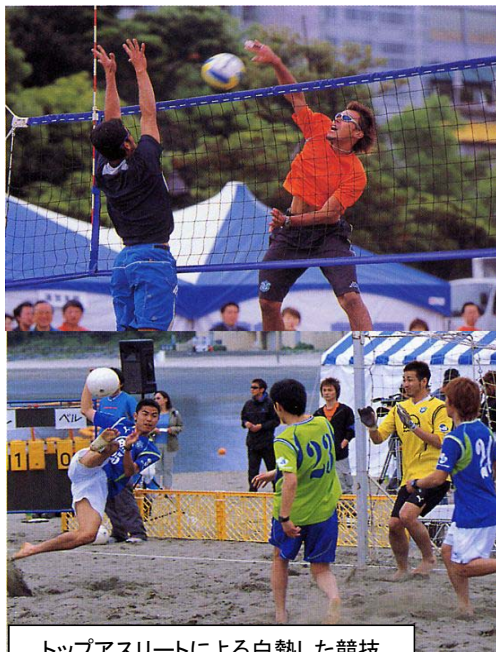


# ビーチクラブをつくろう！



ゴミの分別指導  
「ビーチクラブ形成にむけた社会実験イベント」より  
(H15年6月)

# 1年中楽しめるイベントを開催しよう！



トップアスリートによる白熱した競技



アスリート指導によるふれあいスポーツ教室



アスリートとともにクリーンアップ活動



生命安全教育活動



「2003ビーチスポーツinODAIBA」より

(H15年5月)

# 里浜づくりの推進に向けた取り組み

